

藤 沢

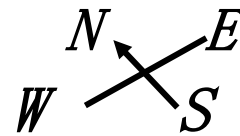
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2023年5月1日

第348号



主
な
記
事

- ・ 小学校を断熱化するワークショップ実施
- ・ 統一地方選挙候補者アンケートへの関心
- ・ この10年の行動が地球の未来を決める
- ・ 平和のおはなし会

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ F A X 0466-87-4922

「憲法記念日」に考えた

国会の決定を経て1946年11月3日に発布された日本国憲法が、翌5月3日に施行された。この日を記念して国民の祝日「憲法記念日」になった。今年で施行されて76年となる。

今年も各地で改憲派と護憲派による「憲法集会」がそれぞれ開催される。環境保護の立場からは、どうしても軍拡・大增税を志向する改憲派の論調に組することができず、改めて「日本国憲法」を考えてみたい。

限られた紙面であるため、こんな問題提起となるが許されたい。憲法違反と訴えられた事項を挙げると、(1)2015年の安保法、敵基地攻撃能力の保有が「平和主義」に抵触(2)学術会議任命拒否が「学問の自由」違反、(3)「信教の自由」と安倍元総理の国葬、(4)年金・生活保護費の減額は憲法違反、(5)「立候補できなかったのは憲法違反」、などだ。

私には、歴代総理が憲法99条(憲法尊重擁護の義務)違反だと思うがいかがだろうか。どうしてこんなに多いのだろう。政府に権力が集中し過ぎなのだろうか。

三権分立の原則がある。政府や一部の階層に権力が集中しないように政府が守る事項を憲法で定めた「立憲主義」。そして政府の政策を司法が憲法判断を行うのだが日本ではそれが不十分なのだろうか？多くの著書もあるだろうが、衆議院憲法審査会事務局の資料もあり、それは改めて読んでみたい(「立憲主義、憲法改正の限界、違憲立法審査の在り方」に関する資料)。

先日、弁護士白神優理子さんの話を聞いた。著書「日本国憲法は希望」も見返した。人が生来もっている人権を保障するために憲法をつくった。私たちは自由で、文化的な生活を営む権利を有し、その実現を国に求める存在であるという。ただしそのためには私たちも不断的努力が必要で、黙ってでは達成できないという。とにかく私は「与えられる一方というのが気楽」が本音だが、それではダメなのだろう。

突然、そこで結論であるが、憲法をないがしろにする者に、憲法を変えさせてはならないということだ。そのために憲法集会に向かう、もちろん政府主催でない方に。

(菅谷芳雄)



エビネ (遠藤 えびね・やまゆり園にて)

統一地方選挙 アンケートへの関心が薄いのは？

選挙は私たちに身近な地方政治に意思を表明する大切な機会である。4月9日には、県知事・県議会議員の選挙が行われ、4月23日には市議会議員の選挙が行われた。

藤沢市では、立候補者は55人でその内36人が当選した。有権者は363,295人で136,911人が投票、投票率は37・69%で、前回をわずかに上回った。女性は10人が当選し改選前より増えた。無効票は2367票もあった。

藤沢エコネットでは市議会議員候補者アンケートを行い環境問題、平和問題などについて質問し、結果は前号に掲載した。

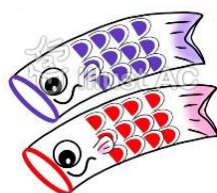
アンケートは3/9付で記述ある方には郵送したがタイミングが合わず、告示前の時期だったので特に新人の立候補者が掴めず、宛先が分からなかった。

市の選挙管理委員会に聞いたところ、立候補の説明会に参加した方の人数は教えていただいたが個人情報であり住所等は公開できないとの事であった。駅頭などでアピールする方のチラシも参考に新人はHPで探してみた。

回答者は12名とあまりにも少なかった。広く問題意識を公表して有権者に届けたい思いは伝わらなかった。選管が前記の投票率を上げるための努力が不足しているのではないかと疑問が残る。また藤沢エコネットもHPの活用などもっとお知らせする手段が欠けていたり、結果の公表が遅れた点は反省すべきところである。

さて回答結果での注目は、問3の温暖化対策は「加速すべき」が多かった。問4の中核都市は説明不足もあったかと思われ「必要なし」が多かった。村岡新駅については「決まってしまったものだから」と「反対」が分かれた。問8、軍事費増強は12人中4人が増強と答え平和への道に影を落とし心配である。

4年間、持続可能な目標をどう実現するのは市民の目が光っていることを忘れないでほしい。市民は市政に目を向けるべきで無関心ではいけない。 （編集部）



小学校を断熱化！親子で 参加型のワークショップ実施

3月25日（土）、藤沢市立小糸小学校の最上階にある多目的教室を断熱化するワークショップを実施しました。

親子ペアでの参加で、工事の一部を行います。最初に建築家で東北芸術工科大学教授の竹内昌義先生から断熱の効果やなぜ今求められるのかを学びました。実際のワークでは、主に窓側の壁に断熱材を入れ、その上にベニヤ板を貼り、木で作られた二重窓を親子で設置。合間に作業の方法や仕組みの説明などを門倉組さんに行っていたことで、子どもたちもコツをつかむことができ、実際にカッターで断熱材を切ったり、釘を打ち込んだりする作業を楽しんでいました。

天井に断熱材を入れるのは安全面を考え、既に作業は終わっていましたが、作業風景などを写真で表示しながらどのような仕組みになっているのかを教えてもらいました。

雨の降る肌寒い日だったので、ワークショップが終わるころには隣の教室との温度の差を実感できました。「楽しかった」「知らないことを知れた」と子どもたちは笑顔で感想を伝えてくれ、やってよかったとスタッフは感じたと思います。

この日のために行ったクラウドファンディングは無事に目標金額を超えて達成しました。他市の方からもご支援や応援の声を頂き、断熱の取組に多くの方が注目していることを実感しています。

準備の期間からずっと協力して下さった門倉組さんを始め、藤沢市のご協力、多くの市民の方と知り合うことができ、断熱の取組を通じて輪が広がったこの繋がりを大事にしていきたいです。今後は室温変化のデータなどを効果として参考にいただき、市の施設の建て替えや回収の際には断熱化が進んでいくよう、対話を続けていきたいと考えています。

既にニュースでは熱中症の注意喚起が行われています。地域から脱炭素の取組のよい例を作っていくよう、私たちも多くの方に断熱の良さを伝えていきたいです。

（Y.F）

平和のおはなし会

4月22日はアースディなので、地球のこと、平和のこと、いろいろ話そうと、エコストアパパラギで平和のおはし会がありました。

1968年（昭和43年）私が放医研で研修を受けていた時、同じ農林省からの方たちと外に食事に行きました。その時、戦時中の話から私の3月10日の話をしました。すると「あなたは生きたのよ、逃げてばかりいたから生きていられたのよ」我々は言葉を失いました。後から思うとそのおかみさんは3月10日に親しい人を失っていたのではないかと思います、当時はいまだ戦争の嫌さを心に秘めた人がまだ多くいらしたのです。とその話をしました。

この集まりには午前、午後とも10人程度の子どもの姿がありましたが、私の話には子どもにはチンプンカンブンであったと思いますが、その子どもたちはとても静かに、石毛佳世子さんの絵本の読み聞かせを、子どもに伝える日本国憲法に目を輝かせながら聞いていました。

久しぶりにみんなと一緒に話しを聞き、歌も歌い一緒に集まることを楽しんでいる様でした。最後の石毛さんの講談「世界で一番貧乏な大統領のスピーチ」も楽しく聞いている子どもたちに、話し合いの機会を失っている姿を見たような気がしました。

～～～

ナチスが共産主義者を連れ去った時、私は声を上げなかった、私は共産主義者ではなかったから。

彼らが社会民主主義者を牢獄に入れた時、

私は声を上げなかった、私は社会民主主義者ではなかったから。

彼らが労働組合員を連れ去った時、私は声を上げなかった、労働組合員ではなかったから。

彼らが私を連れ去った時、

わたしのために声を上げるものは一人も残っていません。

これで私の話はおしまいにしました。

（川崎のり子）



この10年間の行動が、 人類と地球の未来を決める

国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は3月20日、地球温暖化に関する第6次統合報告書を公表した。世界は、パリ協定（2015年）で定めた温暖化対策の国際ルールに従って、産業革命前からの気温上昇を1.5℃に抑えることを目指しているが、いまのペースで温室効果ガスを排出し続ければ、2030年までに達するという。

「住みやすく持続可能な未来のための窓は急速に閉ざされている」1.5℃に抑えるには、25年までに排出を減少に転じさせ、35年には19年比60%減らす必要があると警告している。

排出削減対策の強化は5月の主要7カ国（G7）広島サミットや、年末の国連気候変動会議（COP28）で主要議題となるだろう。しかし、現在各国が国連に出している温室効果ガスの削減目標では「1.5℃を超える可能性が大きく、2℃未満に抑えることも難しい」と指摘されている。報告書は既存の技術を活用すれば「1.5℃目標」は達成可能で、中心的技術として再生可能エネルギーを挙げている。

増え続けている温室効果ガスの排出量を遅くとも25年までに世界全体で減少に転じさせる必要がある。今回の報告書の内容を各国・地域は重く受け止め、政策に反映してほしいが、国だけに頼るのではなく、地域、とりわけ地方自治体の取り組み、それを支える市民によるアクションが重要である。

そのためには気候変動の危機的状況についての科学的情報の共有が不可欠である。地球温暖化は科学であり、現在進行している地球温暖化の要因は、人間が出す温室効果ガスであることは「疑う余地がない」と断言したIPCCの報告書について共有することである。温室効果ガスは、大気中にたまるほど気温が上がるということがわかっている。上昇を抑えようとすれば排出できる量が決まってくる。カーボンバジェット（炭素予算）という考え方だ。過去の排出量から計算でき、今後の削減戦略の指標にもなる。1.5℃までの炭素予算は残り500ギガトン（5,000億トン）しかない。今のペースで排出を続けると、30年ごろで使い切ると報告書は警告。

（次ページに続く）

(つづき)

この考えに基づき作られているのが「気候時計」である。

4月28日現在で世界の炭素予算は2,631億トン、藤沢市では1,463万トンである。このままで炭素予算を使い切る残された日数は、約6年と85日、つまり2029年7月ということになる。

**危機的状況が迫っている 生存のために
残された時間はない!!**

藤沢市は2050年までにゼロカーボンをめざし、脱炭素社会を実現すると「気候非常事態宣言」を表明し、2030年までに46%のCO₂削減を目標に掲げている。

その達成をめざしこの4月からゼロカーボン推進担当を新設した。気候変動の危機的な状況の情報共有が進み、市民、事業者、行政などあらゆる主体が協働した取り組みが発展することで、省エネと再エネの普及が加速することが期待される。

IPCC 報告書の科学的根拠と信頼度

藤沢気候危機時計→

(宮地俊作)



放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 (μSv/h) 地上50cm

4/18 晴 市役所分庁舎入口タイル	0.088
4/18 晴 市役所分庁舎入口植込み	0.041
4/18 晴 本庁舎5階中庭(石板)	0.097

ECONET INFORMATION

▲平和行進 核兵器のない世界の実現を

5月16日(火) 10:00 集合

市長ほかあいさつの後 藤沢市役所本庁舎前からコースを歩きます 一緒に歩こう!

主催 ピースリレー・ふじさわ

連絡先 090-3513-3142(塚本)



▲ふじさわ九条の会 18周年記念の集い

「沖縄、再び戦場へ」上映 45分

柳広司さん(小説家)のお話

5月27日(土) 13:30-16:00

藤沢市民会館小ホール 参加費 500円

連絡先 090-9239-0864(島田)

▲気候危機スタンディング

5月26日(金) 15:30-16:30

湘南台駅西口 地上エスカレーター前

主催: 気候危機アクション藤沢



▲子どもたちが訴えた 311 甲状腺がん裁判

井戸謙一弁護士講演

6月10日(土) 14:00-16:30

茅ヶ崎市民文化会館 参加費¥500

主催 チームみつばち 090-9328-3799

▲藤沢エコネットから

◆リサイクルプラザ・北部環境事業所

(新設2号炉) 見学

5月22日(月) 13:30-

現地集合(湘南台駅西口から慶応大学行きバス)

見学後懇談を行います

申込み先 080-5099-4264(青柳)

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット

口座番号 00240-9-46501】

◆事務局会議 5月6日(土) 10:00-六会公民館

《編集後記》草花がきれいな5月。メーデー、憲法記念日、子どもの日と続くGWは2日休めば9連休となり、くり出しくなるが、まだマスクは外せない。コロナ対策は5類に下げられ、感染しても治療負担や予防は自己責任で進められることになった。これから第9波が懸念され、恐ろしい。(H)